

【世界文化遺産に関するこれまでの動き】

- 平成19年9月 文化庁の世界文化遺産暫定リスト追加記載への公募を受け、県と阿蘇郡市の共同提案として「阿蘇ー火山との共生とその文化的景観」の提案書を提出
- 平成20年9月 文化庁での審議の結果、世界文化遺産暫定リスト入りを逃したものの、それに次ぐ暫定一覧表候補の最上位(カテゴリーⅠa)にランクする
- 平成21年7月 県と阿蘇郡市7市町村共同による「阿蘇世界文化遺産推進室」を旧役犬原小跡に設置。県2名、市2名のスタッフにて推進業務がスタートする
- 平成21年8月 蒲島知事と佐藤市長をはじめとする阿蘇郡市7市町村長による基本協定への調印と推進協議会設立
- 平成21年11月 阿蘇世界文化遺産シンポジウムの開催(阿蘇の司ピラパークホテル)

▶ 熊本県民から最も親しまれる草千里の風景



推進室には、県と阿蘇市の4名のスタッフが配置され、各構成資産に位置づけた文化財の国指定に向けた調査や保全方法の検討のほか、周知啓発などの情報の受発信などの業務に取り組んでいます。本年度は、阿蘇の草原を中心とした文化的景観の調査を開始すると共に各分野の専門家を集めた委員会の開催をはじめ中央火口丘や米塚、中通古墳群の資料調査などを進めています。



阿蘇世界文化遺産推進室のスタッフ

世界文化遺産 登録に向けて

No. 1

阿蘇世界文化遺産推進室

『阿蘇は世界文化遺産への登録を目指しています！』

これまで「広報あそ」で何度かお知らせしていますように、阿蘇市では郡内6町村と熊本県との共同で、私たちが暮らすこの阿蘇地域を世界文化遺産へ登録することを目指しています。

世界遺産に登録されるには、いつの時代に誰が見ても素晴らしいと思える価値があり、さらにその価値を将来に亘って守っていくことが条件になります。阿蘇が目指す「自然との共生」という視点の世界文化遺産においては、阿蘇の持つ自然景観の価値に加え、永年培われた「文化的価値の再評価」が重要です。その上で世界的にも優れた価値があることを証明し、“人類共通の宝物”として後世にわたって維持し続けるための仕組みづくりに取り組みなければなりません。

そこで、まずは国の暫定リスト入りを当面の目標として、昨年7月、旧役犬原小学校舎内に「阿蘇世界文化遺産推進室(以下、推進室)」が設置されました。

世界文化遺産登録の動きを後押しする出来事として、阿蘇地域は昨年10月に、貴重な地質遺産を持つ地域が選ばれる「日本ジオパーク」に認定されました。今後、「世界ジオパーク」への認定を目指す活動が本格化する中、世界文化遺産への登録推進にも大きな弾みとなることが期待されています。次号以降、世界遺産の仕組み、メリット・デメリット、国内及び海外の世界遺産の紹介、世界文化遺産登録を目指す阿蘇地域の構成資産の紹介などを随時行っていきます。私たちが住んでいるこの阿蘇をいい状態で未来へ引き継ぐための世界文化遺産登録について、市民の皆さんのご理解とご支援をいただければと思っております。